

## ドイツ語（初級A）／Aドイツ語 第11回 話法の助動詞

範囲：教科書第7課（S.29-31）

### 《今回の基本例文》

33. Darf ich dich einen Augenblick stören? (CD36-2)  
一瞬だけお邪魔しても構いませんか？  
[話法の助動詞 dürfen、時間を表す副詞的4格]
34. Können Sie Deutsch verstehen? (CD37-2)  
あなたはドイツ語をお話しになれますか？  
[話法の助動詞 können]
35. Du musst mehr Gemüse essen. (CD38-3)  
君はもっと野菜を食べないといけない。  
[話法の助動詞 müssen、不定数詞 viel、viel の比較級 mehr]
36. Wir sollen die Verkehrsregeln beachten. (CD39-2)  
私たちは交通規則に注意すべきである。  
[話法の助動詞 sollen]
37. Jürgen will Ingenieur werden. (CD40-1)  
ユルゲンはエンジニアになりたい。  
[話法の助動詞 wollen]
38. Ich möchte eine Tasse Tee trinken. (CD41-1)  
私は紅茶を一杯いただきたいと思います（紅茶を一杯ください）。  
[話法の助動詞 mögen、mögen の接続法II式 möchte、助数詞]

## ☆ 話法の助動詞

### 1 話法の助動詞の現在人称変化 (S.29)

◇ 英語では、助動詞として *can, may, must, shall, will...*などを習い、「動詞の原形と併用する」と教えられたはずである。ドイツ語にも助動詞があり、動詞の不定詞とともに使用される。ただし、助動詞は不規則な現在人称変化をし、使用するときの語順も英語とは大きく異なる。

\* ちなみに、ドイツ語の助動詞は、教科書にあるように「**話法の助動詞**」と呼ばれることが多い。ここで言う「話法」は、直接話法や間接話法の「話法」ではなく、むしろ直説法や命令法や仮定法の「法 (Modus、英 mood)」と関係がある。Modusの形容詞形が modal であり、Modalverben を「法の助動詞」ではなく「話法の助動詞」と訳しているのである。

\*\* つまり、文の内容を単に事実として提示するのではなく、誰かの判断（可能、許可、義務、必然、推量、願望など）を含めて示すときに用いるのが話法の助動詞である、ということになる。

\*\*\* 以上は「話法の」とはどのような意味なのか疑問に思った人のための蛇足的説明で、もちろん覚える必要はない。

◇ 各話法の助動詞の意味はのちに整理するとして、取り敢えず教科書 S.29 の現在人称変化表を覚えること。

- ◇ 語法の助動詞の現在人称変化の特徴は、
- ・単数に対してのみ不規則変化、(下記の **möchte** を除いて) 複数に対しては規則変化
  - ・ **ich** と **er** に対する変化形が同じ
  - ・ **du** に対する変化形の語尾は **-st** (規則変化と同じ)

である。

	<b>dürfen</b>	<b>können</b>	<b>müssen</b>	<b>wollen</b>	<b>sollen</b>	<b>mögen</b>
<b>ich</b>	<b>darf</b>	<b>kann</b>	<b>muss</b>	<b>will</b>	<b>soll</b>	<b>mag</b>
<b>du</b>	<b>darfst</b>	<b>kannst</b>	<b>musst</b>	<b>willst</b>	<b>sollst</b>	<b>magst</b>
<b>er</b>	<b>darf</b>	<b>kann</b>	<b>muss</b>	<b>will</b>	<b>soll</b>	<b>mag</b>

\* 複数に対する変化形は規則変化のため省略。

- ◇ もう一つ、教科書に掲載されている **möchte** は、正式には独立した語法の助動詞ではないが、頻出するので、やはりこの機会に覚えてほしい。

	<b>(möchte)</b>
<b>ich</b>	<b>möchte</b>
<b>du</b>	<b>möchtest</b>
<b>er</b>	<b>möchte</b>
<b>wir</b>	<b>möchten</b>
<b>ihr</b>	<b>möchtet</b>
<b>sie</b>	<b>möchten</b>

\* **möchte** は **mögen** の接続法 II 式というかたち (英語の仮定法に相当、教科書 S. 70 に登場するが本授業では扱わない) であり、要するに **mögen** の別形である。

\*\* こうした特殊事情のため、**möchte** に関してだけは複数に対する変化形もまとめて覚えてほしい。

- ◇ 語法の助動詞と似たような変化をする動詞に **wissen** (*vt.*) がある。

	<b>wissen</b>
<b>ich</b>	<b>weiß</b>
<b>du</b>	<b>weißt</b>
<b>er</b>	<b>weiß</b>
<b>wir</b>	wissen
<b>ihr</b>	wisst
<b>sie</b>	wissen

\* 結局、語法の助動詞以外で完全に不規則な変化をする動詞は、**sein, haben, werden, wissen** の 4 つである。

**wissen** は情報を「知っている、わかっている、覚えている」意味で、人や物を「知っている、面識がある」ときは規則動詞の **kennen** を使う (英語の *know* の意味がドイツ語では 2 つの動詞に分かれている)。

.....

☞ Ich weiß die Wahrheit.

☞ 私は真実を知っている (= 真実をわかっている)。

☞ Ich kenne ihn.

☞ 私は彼を知っている (= 彼と面識がある)。

.....

**補足** 話法の助動詞を用いた文の語順

話法の助動詞 → 第 2 位 (定動詞の位置)  
不定詞 → 文末

◇ 話法の助動詞を用いた文の語順は、話法の助動詞を定動詞の位置に(平叙文や補足疑問文なら第 2 位、決定疑問文なら第 1 位)、不定詞を文末に置く。図示すれば、

第 1 位	第 2 位	第 3 位以下	文末
…	話法の助動詞 (現在人称変化)	…	不定詞

となる。

◇ このため、英語とは全く異なる語順になる。

.....

He can speak English very fluently.

(助動詞) (原形)

彼は非常に流暢に英語を話すことができる。

Er kann sehr fließend Englisch sprechen.

(助動詞) (不定詞)

彼は非常に流暢に英語を話すことができる。

.....

\* 授業第 5 回配付資料 S.1 で、「定動詞と最も結びつきが強い要素は動詞から最も離れた文末に置く」規則 (梓構造) について説明した。話法の助動詞を用いた文の語順も、定動詞=話法の助動詞と最も結びつきが強い不定詞を文末に置くという意味で、梓構造の一種である。

\*\* これまで登場した「定動詞と最も結びつきが強い要素」は、4 格目的語、移動の目的地、そして話法の助動詞に対する不定詞であった。ほかにも類似の梓構造はいたるところに出てくるので、その都度確認することにしたい。

◇ 教科書 S. 29 の例文に関しては、

.....

i) Ich kann das nicht sagen.

私はそれを言うことができない。

iii) Klaus will sie unbedingt heiraten.

クラウスは彼女とどうしても (無条件で) 結婚したいと思っている。

\* 以上 2 つは基本的な平叙文。

ii) Morgen musst du früh kommen.

明日、君ははやく来なければならない。

\* 副詞を文頭に出した平叙文の場合。

iv) Was können wir für Sie tun?

なにかお役に立てますか (私たちはあなたのためになにかできますか) ?

\* 疑問代名詞 was を用いた補足疑問文の場合。

v) Darf ich hier rauchen?

ここで煙草を吸ってもよろしいでしょうか。

\* 決定疑問文の場合。

.....

## 補足 各話法の助動詞の意味と用法

◇ **dürfen** は、許可の意味の *may* に対応し、

- ・「～してよい」という許可。
- ・否定では「～してはいけない」という禁止。
  - \* 肯定系と否定形の関係は *may/maynot* と同じ。

◇ **können** は、*can* に対応し、

- ・「～できる」という可能。
- ・「～してよい」という許可。
- ・「～かもしれない」という推量。
  - \* *können* の最も基本的な意味は可能で、そこから許可（～できる＝～してよい）や推量（～でありうる＝～かもしれない）が派生したと考えればよい。

◇ **müssen** は、*must* に対応し、

- ・「～しなければならない」という義務。
- ・「～に違いない」という論理的必然。
  - \* *müssen* の最も基本的な意味は「～以外に選択肢がない」、そこから義務（～しなければならない）や論理的必然（～に違いない）が派生する。また、このため、同じ「～すべきである」と訳す場合でも、下記の *sollen*（世間一般が～と言っている）とはニュアンスが異なる。

◇ **sollen** は、

- ・「～すべきである」という道義的要求。
- ・「（誰かが）～と言っている」という他者の意思。
- ・「～だそうである」という噂。
  - \* *sollen* の最も基本的な意味は他者の意思（誰かが～と言っている）で、その「他者」が世間一般のとき、道義的要求（～すべきである）や噂（～だそうである）の意味が生じる。このため、同じ「～すべきである」と訳す場合でも、上記の *müssen*（～以外に選択肢がない）とはニュアンスが異なる。
  - \*\* 語源的には *shall* と同じだが、その仮定法形である *should*（～すべきである）に近い使い方をする。

◇ **wollen** は、

- ・「～したい」という主語の意思。
- ・主語が複数 1 人称のとき（多くは決定疑問文で）は「～しよう」という促し。
  - \* *wollen*＝自分の意思／*sollen*＝他者の意思と考えればよい。
  - \*\* 語源的には *will* だが、*want to* や *let's* に近い使い方をする。

◇ **mögen** は、

- ・「～するのが好きだ」という好み
- ・「～だろう」という推量。
  - \* 「～するのが好きだ」の意味における *mögen* は、本動詞としても使う場合が多い。ドイツ語には英語の *like* に当たる他動詞がないので、こちらで代用する。すでに登場した教科書 S. 25 の例文が典型例。

Wir mögen ihn.

我々は彼が好きだ。

\*\* 語源的には推量の意味の *may* に対応するが、*like to* に近い使い方もするといえる。

◇ **möchte** は、

・「～したい」という**願望**。 *would like to* に対応する。

\* *möchte* が *mögen* の接続法 II 式であり独立した語法の助動詞ではないことは、すでに述べた (本資料 S. 2)。

\*\* 同じ「～したい」でも *wollen* より丁寧な言い方になる。接続法は英語の仮定法と同じく婉曲表現になるため (*would like to* も仮定法である)。

◇ 以下、教科書 S. 29-31 の例文に関する補足。

.....  
Können wir hier in der Nähe etwas essen?

この近くで食事はできますか。

\* **etwas** という不定代名詞が使用されている。*etwas* は漠然と「なににか」を表す代名詞 (英語の *something* に相当)。授業第 9 回配付資料 S. 2 で覚えてもらった「物・事」を表す略記号、*et.*、*et.*などがいずれも *etwas* の略であるのはすでに述べた。

\*\* *in der Nähe* は「近所で」。熟語的表現。

Das Kind kann noch nicht laufen.

その子はまだ歩けない。

\* *laufen* は「走る」として登場したが (⇒教科書 S. 15)、単に「歩く」の意味もある。

Auch der Vater muss für die Kinder sorgen.

父親も子供の面倒を見なければならない。

\* *für jn./et. sorgen* は「〈4 格〉の面倒を見る」。前置詞を用いた熟語。

Ihr Mann soll Ingenieur sein.

彼女の夫はエンジニアだそうだ。

\* *Ingenieur* はフランス語式発音で、*ge[ʒe]* や *eu[ø:]* の部分はドイツ語の規則とは異なる。つまり、この場合の *eu* はドイツ語でいう *ö* と同じ音になる (CD で要確認)。

Ich möchte gern Frau Schmidt sprechen.

シュミットさんとお話したいのですが。

\* この *sprechen* は「〈4 格〉と話す」の意味であって、「〈4 格〉を話す」ではない。

.....  
◇ 教科書 S. 31 の下記の例文

.....  
Wollen wir eine Tasse Kaffee trinken?

コーヒーを一杯飲もうか。

.....  
における *eine Tasse* (カップ 1 杯の) は、*Kaffee* (*m.* コーヒー) という数えられない名詞を量るときに用いる**助数詞**である。英語 (*a cup of coffee*) と異なって前置詞は必要なく、測るべき名詞と同格になる。

*ein Glas* グラス 1 杯の (*n.*)

*ein Krug* ジョッキ 1 杯の (*m.*)

*eine Flasche* 瓶 1 本の (*f.*)

.....  
Ich möchte gern einen Krug Bier trinken.

ビールをジョッキ 1 杯飲みたい (ください)。

\* *Bier* が他動詞 *trinken* (〈4 格〉を飲む) の目的語であるため、助数詞の *ein Krug* も同格の 4 格 (*einen Krug*) になっている。

## 2 話法の助動詞に準ずる動詞 (S. 31)

◇ **lassen** は**使役動詞**全般として使うことができる。意味は「〈4 格〉に〈不定詞〉させる」。

\* 英語の *let* と語源を同じくする語だが、英語のような *make* や *have* との使い分けはない。

なお、この *lassen* は、教科書第 3 課で扱った単数 2・3 人称で幹母音が *a* → *ä* に変音する動詞である。  
*ich lasse, du lässt, er lässt...* となることに注意。

◇ **hören** や **sehen** のような**知覚動詞**も不定詞と併用でき、「〈4 格〉が〈不定詞〉するのを聞く／見る」の意味になる。4 格目的語が意味上の主語となることに注意。

\* 英語でも、*hear* や *see* の場合、「原形不定詞」と併用する。

\*\* 知覚動詞を用いた、日本でも有名なドイツ語文の例は、

Sah ein Knab ein Röslein stehn, Röslein auf der Heiden.

童は見たり、野中の薔薇。(近藤朔風訳)

とはじまるゲーテ作詞の歌曲「野ばら」で、音楽の授業などでもよく取り上げられる。*sah* は *sehen* の過去形であり (まだ扱っていないが)、*Knab(e)* は *Junge* と同じ意味。定動詞が第 1 位にあるのは、決定疑問文だからではなく、詩の韻律 (アクセントのリズム) を強弱強弱強弱...にするため (*stehen* が *stehn* なのと同じ理由)。現代語として普通の書き方をするとこうなる。

Ein Knabe sah ein Röslein stehen, Röslein auf der Heiden.

少年は小さな薔薇が生えているのを見た、野原のうえに薔薇が。

シューベルトによる歌曲は、以下の URL で聞くことができる (<https://www.youtube.com/watch?v=07Vke7E0D-U>)。

### 練習問題の補足

#### Übung 1 (S. 30)

1. **viel** (多くの) は、英語の *many* や *much* に相当する (可算か不可算かによる区別はない)。
2. **einen Augenblick** は**時間を表す副詞的 4 格**で、「一瞬」の意味。動詞の 4 格目的語ではなく、文中では副詞として扱う。ほか、**jeden Tag** (毎日)、**dieses Monat** (今月) など。

#### Übung 2 (S. 30)

3. この *es* は自然現象を言うときに用いる主語で、英語の *it* に同じ。 (⇒教科書 S. 21、S. 57)

#### Übung 3 (S. 30)

3. **mehr** は前述の **viel** の比較級で、「もっと」の意味。英語の *more* に相当。

\* *viel* は正確に言えば形容詞ではなく不定代名詞の仲間であるが、比較級や最上級が存在する。これについては、のちにまとめて扱う。 (⇒教科書第 16 課)

#### Übung 5 (S. 31)

2. **länger** は形容詞 *lang* の比較級で、「より長い」の意味。この場合は副詞的用法で「より長く」。
3. **dazu** は**前置詞と人称代名詞の融合形**だが、特に「そのために、それについて、それに加えて」の意味で用いられる。 (⇒教科書 S. 27)

### 連絡先など

教員のメールアドレス: [tokan@nifty.com](mailto:tokan@nifty.com) 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>